

地域おこし協力隊・ 地域共創プログラム



～ 東京のフィールドと共創し、
活動を成果に変える実践プログラム～

2026.1.12

 文京経済新聞
MINKEI

 我楽田工房
GARAKUTAKOBO

✕ プログラム概要

東京での実践を通じて、活動を成果に変えるプログラムです。



座学ではない！
「動いて試す」実践型

主な特徴とメリット



1. 東京の実践フィールドで客観的な反応を獲得



2. オンライン中心で日常活動と両立可能



3. メディア編集体験で発信力を強化



4. 活動を任期後の「実績」として残す

こんな方におすすめ



都市部でのPR・販路開拓を進め



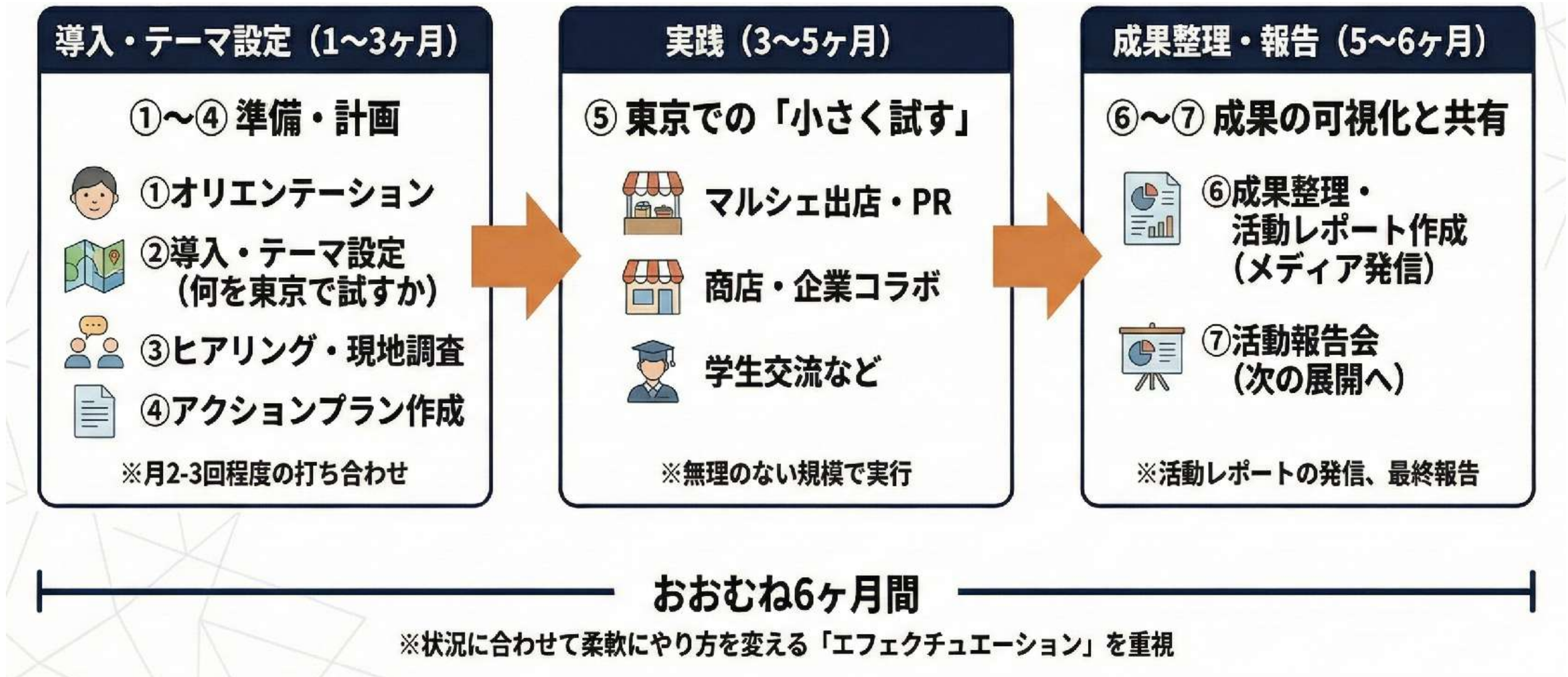
情報発信力を高めたい方



任期後の実践的な実績を作りたい方


✕ プログラムの流れ（全体像）


導入から実践、成果まで、約6ヶ月間で行います。



✕ 実践について「東京のフィールドで何ができるのか？」

ミッションやテーマに応じて、様々な実践が行えます。

 地域イベント・マルシェでの試験販売・PR



テスト販売や反応調査。
直接、顧客の声を聞く。

 区内飲食店とのコラボ



地元食材メニュー開発・フェア。
期間限定企画やメニュー開発。

 区内企業・学生との商品開発・交流



関係人口づくり。
企業や学生との連携で新たな可能性。

 夏祭り「文京思い出横丁」への出店



1万人規模の来場者。
大規模イベントでのPRと実践。

**無理のない規模で「小さく試す」ことを重視。
その反応を次の一手につなげます。**

✕ 都内で行われた具体的な実践例

来場者1万人規模の夏祭り
「文京思い出横丁」への出店



お酒をテーマとした地域イベント
「文京00横丁in鳳明館」への出店



飲食店と連携した地域食材を使ったメニュー開発
地域限定フェアの実施



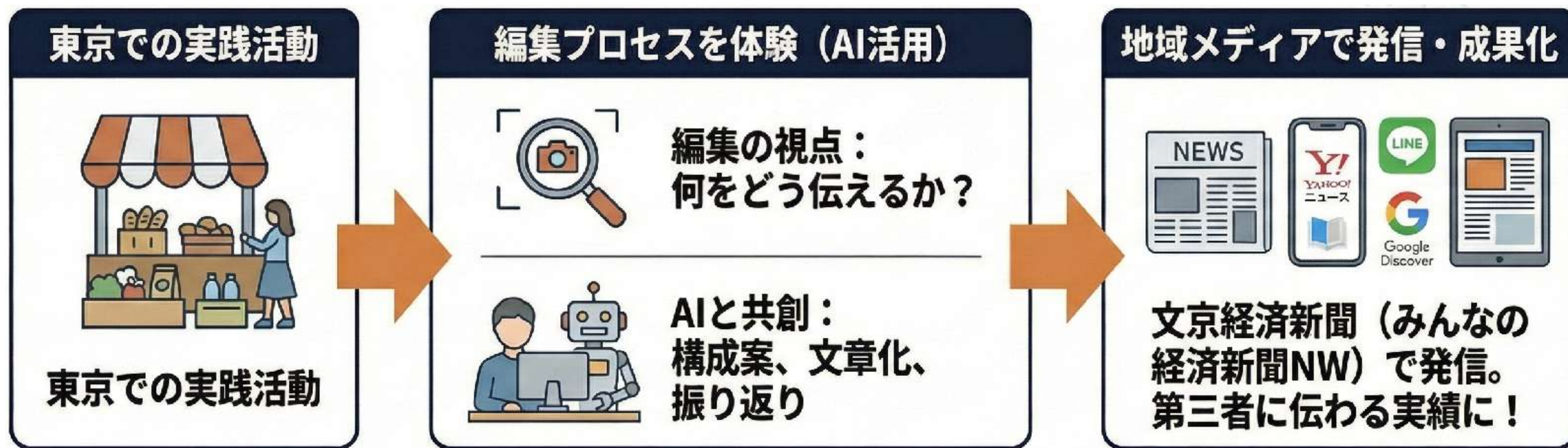
地域の特産品を使い、都内のビール醸造所と
コラボして作ったビール開発&販売



※上記は一例であり、協力隊のテーマや状況に応じて実践内容は柔軟に設計します。

✕ 「地域メディア」の実践プログラムについて

地域メディア「文京経済新聞」と連携。活動を「見える成果」へ



記事例1：報道記事
【速報】文京区の夏祭りに
地域産品が登場！
〇〇隊員が出店

記事例2：活動レポート記事
【特集】都市と地域の共創、
6ヶ月間の挑戦と得られた
成果とは？

※ 文京経済新聞は、全国138地域が参加する「みんなの経済新聞」に所属し、Yahoo!ニュース、LINE、Google 等にも配信されています。

✕ オンライン伴走 x 東京での実践

通常は「オンライン」での打ち合わせや伴走支援。
必要なタイミングで東京とつながり、実践活動を行います。

日常は、地域でいつもの活動を。



基本はZoomでのオンライン打ち合わせ・伴走。
長期間、地域を不在にする必要はありません。
日々の活動を継続しながら、無理なく準備を進められます。

「ここぞ」という場面で、東京へ。



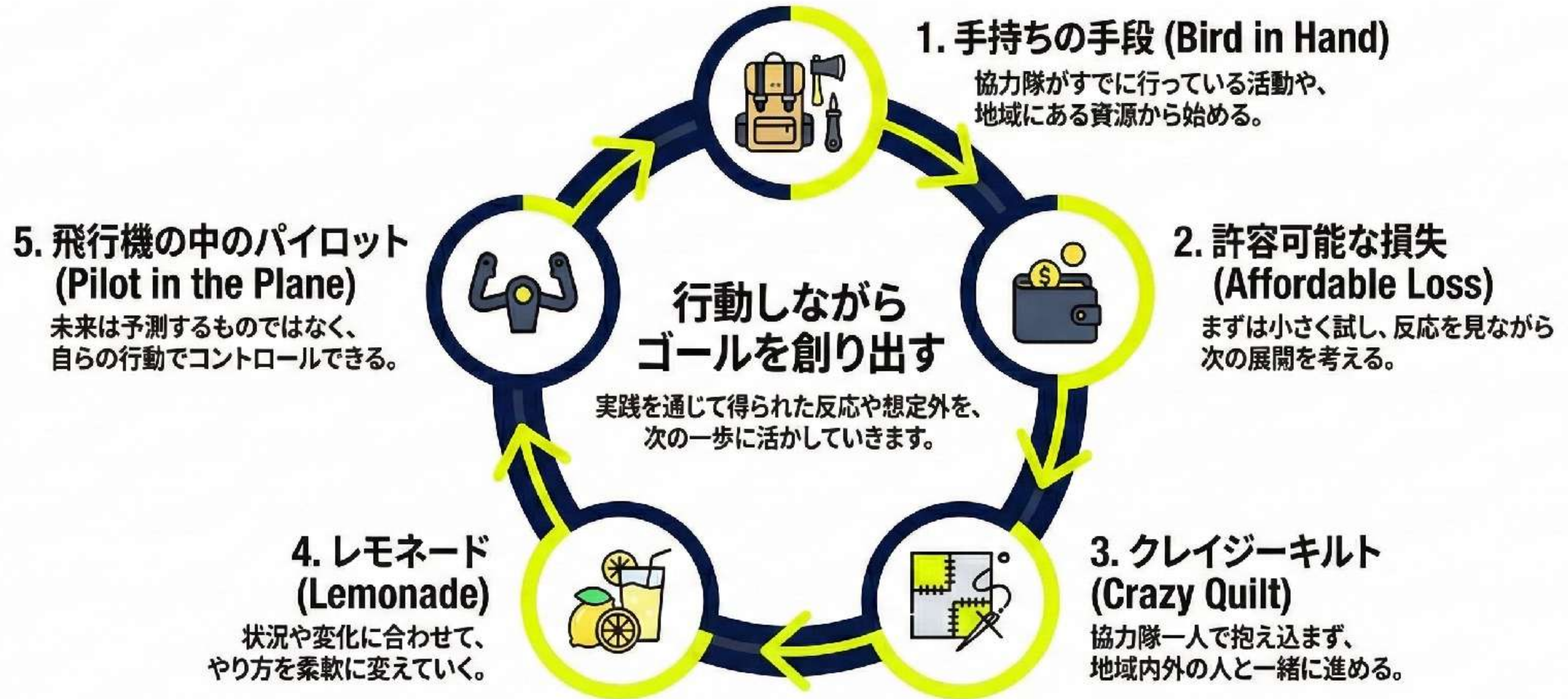
東京に来るのは、マルシェやイベント等の「実践日」だけ。
短期集中で現場に立ち、リアルな熱量と反応を持ち帰ります。



東京側で必要な商店やイベントなどの調整は、
主に我楽田工房がサポートします。

✕ プログラムの設計について

手持ちのカードからはじめ、小さく試し、失敗を「成果」に変える



※予測不能な未来を動かす思考法「エフェクチュエーション」をベースに設計しています。

✕ スタッフについて

全体統括・実践設計担当



横山 貴敏

我楽田工房 代表

プログラム全体の設計、実践の方向づけ、伴走支援

2014年に、東京と地方をつなぐ地域交流スペース「我楽田工房」を立ち上げ、全国の自治体・企業・学生と連携しながら、地域創生プロジェクトを多数プロデュース。経営者・専門家が集うコミュニティ運営など、東京の地域活性化にも取り組んでいる。

地域調整・メディア担当



堀田 真輝

文京経済新聞 編集長

情報発信の設計、成果の見せ方・まとめ方の支援

Web制作・マーケティング分野で16年以上の実務経験を持ち、100社以上の中小企業の売上向上や集客改善を支援。現在は地域メディア「文京経済新聞」編集長として、地域の取り組みを日常的に取材・編集・発信している。

イベント運営・食体験担当



藤原 美穂

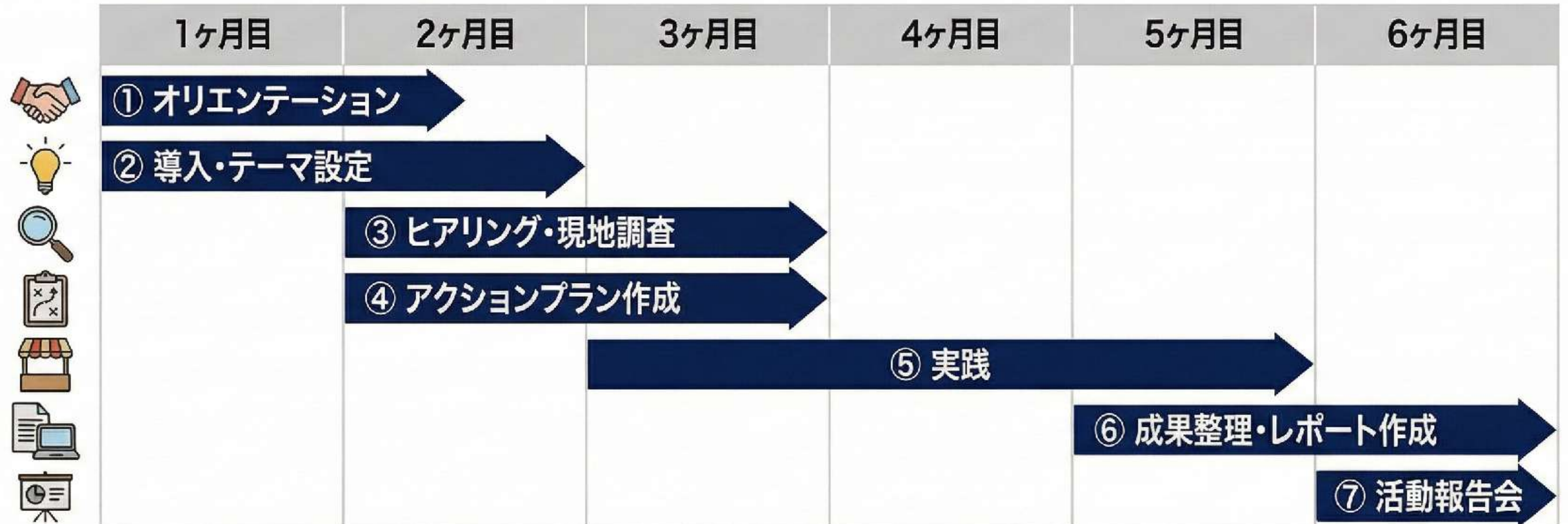
PLANT KITCHEN TOKYO 店主

食を軸にした商品・メニュー開発、イベント企画の支援

大学卒業後、大手広告代理店のコンテンツ事業に従事。現在は我楽田工房でコミュニティマネージャーとして会員や学生を支援。2025年に完全予約制のヴィーガンレストランをオープン。食を通じた地域資源活用と共創の実践を行っている。

✕ スケジュールイメージ

準備から実践、成果報告までの標準的な流れ



【期間中の主な並行活動】

 月2-3回程度の打ち合わせ |  イベント・フェアなどの実践 |  文京経済新聞での活動レポートの発信 |  最終活動報告会

✕ プログラムで目指す成果

「挑戦」を、地域の確かな「成果」へ変える。

1



販路拡大

都内飲食店・商店での販売実績。

2



PR強化

大手ニュースメディアへの記事掲載。

3



関係人口

東京の協力者・ファンとのつながり。

4



可視化

任期終了後も使える「活動実績ポートフォリオ」。

単なる体験や学びで終わらせず、実践した事実と、その結果を成果として整理します。



お問い合わせ先

【名称】 我楽田工房 / Bono Inc.

【担当】 横山、堀田

【電話】 03-6228-0051 (代表) | 090-303-8275 (携帯)

【メール】 info@garakuta.tokyo

【URL】 <https://garakuta.tokyo/>

我楽田工房について

我楽田工房は、2014年より東京・文京区を拠点に、地域交流スペース「我楽田工房」を立ち上げ、東京と地方をつなぐ地域創生に取り組んでいます。

これまでに東京と地方をつなぐ交流イベントの企画・運営をはじめ、学生を地方産業と結びつけるローカルインターン、企業や経営者を対象とした地方視察、生産者と消費者をつなぐ食の交流やヴィーガン専門店の運営、さらに地域メディア「文京経済新聞」の運営など、東京と地方との共創の場を数多く手がけています。